

第4回文部科学省国際教育協力拠点(学校保健分野)ワークショップ  
タイの新学習指導要領について

新潟大学 笠井

タイ政府による、第7次国家経済社会開発計画(1992～97年)、第7次国家教育開発計画(1992～97年)以降の、教育の民営化及び地方分権化推進。1999年8月には新国家教育法が制定。

新国家教育法による5つの教育方針 2002年より段階的に実施

1. 「自然環境と調和した科学・技術の知識技能の発展」
2. 「宗教・文化・知恵の重視」
3. 「民間による教育管理・運営の促進」
4. 「地方における教育地区の設立」
5. 「12年の基礎教育制度の規定」

**2001年の新カリキュラム制定**では、「学習者が自主的・継続的に学ぶ**学習者中心教育**」および「ナショナリズム・グローバリズム・ローカリズムの調和」が図られている。

参考図書：学習実行計画 基礎科目保健体育学習重要点第1(小学校1年生)

保健体育 1 小学校1-3年生

仏歴2544年(2001年) **基礎レベル学習指導要領**

著者：Brchai Sirimhashakhon、Samrtri Shiphamang、Whattcha Kwangthong

出版：アクソーンチャルーンタット社

教育省により、仏歴2544(2001年)年度から、基礎レベル学習指導要領が、以下の期間条件をもって通達された。

2002年 パイロット校及び教育省系統学校への導入

導入学年

|          |          |       |         |         |
|----------|----------|-------|---------|---------|
| 2003年全学校 | 小学校1年生   | 4年生   | 中学1年生   | 高校1年生   |
| 2004年全学校 | 小学校1 2年生 | 4 5年生 | 中学1 2年生 | 高校1 2年生 |
| 2005年全学校 | 小学校1 3年生 | 4 6年生 | 中学1 3年生 | 高校1 3年生 |

全学年にて実施

**小学1-6年生の重要8項目**(タイ語、数学、理科、社会・宗教・文化、**保健体育**、美術、職業および技術教育、外国語(英語))

学習規準→保健体育学習重要点

仏歴2544年(2001年)基礎レベル学習指導要領小学校1-3年第1段階

**重要点1**：人間の発育と発達

基準P1.1：人間の発育と発達の理解

学習段階規準

1. 体と心の発育と発達の理解
2. 人間のライフサイクル

**重要点2**：家族と生活

基準P2.1：生活の中における技術(スキル)、性教育、家族、生活の価値の理解

学習段階規準

1. 自分を愛すること、生活と健康に繋がる家族の影響の理解。
2. タイ文化に従った自己の性に相応しい行動と男女の違いと特徴の理解。
3. 身体の清潔管理。
4. 性に関した過ちを犯す行動と回避について知る。

**重要点3：動作、運動、ゲーム、タイのスポーツ、世界のスポーツ。**

**基準P3.1：スポーツ、ゲーム、身体活動、動作における技術の理解。**

**学習段階規準**

1. 道具の使用と運動場所における身体動作のコントロール。
2. 安全で楽しいゲームと身体活動への参加。
3. 健康に効果のある運動とゲームの効用。

**基準P3.2：スポーツの美をいつくしみ、ファイティングスピリッツやスポーツマン精神を持ち、ルール、規則、権利を尊重し、規律をもち、常に実行し、運動、ゲーム、スポーツを愛好する。**

**学習段階規準**

1. 運動およびゲームと身体活動を含める。
2. 集団、他者と協力したゲームにおいてアドバイス、ルール、規則、秩序に沿って実行する。
3. 自己の権利そして集団ゲームにおける他者の権利への尊重に沿った実行する。
4. 率先して責任を引き受けたり、成功を体験するまで協力する役割を担う。

**重要点4：病気の予防、能力、健康の奨励。**

**基準P4.1：健康のための能力増進、病気の予防、健康の維持、健康増進に価値を見出し、スキルを持つ。**

**学習段階規準**

1. 行動、健康、環境、良い生活との関連を理解する。
2. 健康と習慣的行動を理解および重要視する。
3. 病気、怪我の症状と予防を理解し説明する。
4. 食事や健康食品を選んで食べたり、健康に悪い影響を与える物を拒否することを知ったり理解し、スキルを持つ。
1. 気分の不調、ストレス、健康問題がある時にアドバイスにそった行動をとる。
2. 自己の健康、運動、休養、レクリエーション活動へ参加に配慮する。
3. 健康のための身体能力を身に付けてアドバイスに沿って増進する。

**重要点5：生活の安全**

**基準P5.1：激情、習慣性薬物の使用、事故、健康に対する不安行為、危険からの回避及び予防。**

**学習段階規準**

1. 火災発生、激情、習慣性物質の使用、禁止薬物の使用、事故の発生、健康への危険に導く行為や回避について理解する。
2. 事故や有害化学物質から自分を守って、簡易方法によって応急処置ができるようにする。

**指導者のための重要な指導実践集 重要5項目**

|                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| <b>1統合学習計画</b> | <b>児童・生徒中心</b>                   |
| 2 実践           | 児童・生徒の学習活動、真の学習成果評価、ポートフォリオ評価を基本 |
| 3 知識           | 児童・生徒自らが探求できる本質                  |
| 4 実習と試験        | 学習成果評価                           |
| 5 計画形式指導方法     | 児童・生徒自らによる計画立案                   |

|                |          |          |
|----------------|----------|----------|
| 健康教育（保健）学習実施計画 | 年間 54 時間 | 学習時間（時間） |
|----------------|----------|----------|

|          |         |    |
|----------|---------|----|
| 学習グループ 1 | 私たちの身体  | 10 |
| 学習計画 1   | 私たちの身体  | 3  |
| 学習計画 2   | 成長する私たち | 3  |
| 学習計画 3   | 感覚      | 2  |
| 学習計画 4   | 自分の理解   | 2  |

|          |         |    |
|----------|---------|----|
| 学習グループ 2 | 自己管理    | 13 |
| 学習計画 5   | 清潔な身体   | 2  |
| 学習計画 6   | 美味しい食事  | 3  |
| 学習計画 7   | 健康的な食事  | 2  |
| 学習計画 8   | 清潔で丈夫な歯 | 2  |
| 学習計画 9   | 興味の追究   | 2  |
| 学習計画 10  | 運動しよう   | 2  |

|          |         |    |
|----------|---------|----|
| 学習グループ 3 | 身の周りの健康 | 12 |
| 学習計画 11  | 私は誰     | 2  |
| 学習計画 12  | 不注意の危険  | 2  |
| 学習計画 13  | 私の家     | 3  |
| 学習計画 14  | 自分でできる  | 3  |
| 学習計画 15  | 大好きな学校  | 2  |

|          |          |   |
|----------|----------|---|
| 学習グループ 4 | 生活の中の安全  | 9 |
| 学習計画 16  | 安全な生活    | 3 |
| 学習計画 17  | 健康的な遊び   | 2 |
| 学習計画 18  | 気をつけて！危険 | 2 |
| 学習計画 19  | プライマリーケア | 2 |

|          |        |   |
|----------|--------|---|
| 学習グループ 5 | 病気と薬   | 6 |
| 学習計画 20  | 具合が悪い時 | 2 |
| 学習計画 21  | 知るべき病気 | 2 |
| 学習計画 22  | 中毒物質   | 2 |

|         |        |   |
|---------|--------|---|
| 学習計画 23 | 保健体育計画 | 4 |
|---------|--------|---|

|                |          |          |
|----------------|----------|----------|
| 体育（内容省略）学習実施計画 | 年間 42 時間 | 学習時間（時間） |
|----------------|----------|----------|

|          |           |    |
|----------|-----------|----|
| 学習グループ 1 | 運動することの確認 | 15 |
| 学習グループ 2 | 運動の発達     | 6  |
| 学習グループ 3 | 遊び        | 15 |

|          |              |   |
|----------|--------------|---|
| 学習グループ 4 | 健康増進         | 6 |
| 学習計画 13  | 身体づくりの増進     | 3 |
| 学習計画 14  | 誰が健康か知ってますか？ | 3 |

## 統合学習実施計画 5 重要項目

### 1 学習者に重要性を強調する統合学習実施計画

学習方法の学習 (Learning How to Learn) の視点、6 段階。

- 1.1 導入 (Introduction) 学習項目への導き。
- 1.2 体験 (Experience) 最も優れた学習方法は、学習者が学びに関する経験をするために実践をともなった活動を行うことである。さらに、児童・生徒の学習記録フォルダー (Folio) に活動成果を記録し、学習成果評価として用いる。いわゆる、真の評価である。(Authentic Assessment)
- 1.3 反応 (Reflection) 児童・生徒が実践し学習段階での報告を通して自らの知識を構築する。
- 1.4 理論 (Theory) 原理あるいは仮説の思考として要点を学ぶ。
- 1.5 活動 (Action) 仮説もしくは実際の状況における問題解決によって学ぶ。
- 1.6 総括 (Conclusion) 学習活動をまとめ、学習項目を要約、質問して学習結果を評価

### 2 学習活動と児童・生徒の実践例

児童・生徒が自主的に学習したり、児童・生徒の学習ファイル (Portfolio) による活動成果を記録する。子ども中心教育及びポートフォリオを用いた成果評価は、子どもを中心としたポートフォリオによる学習過程 (Process) を評価することであり、児童・生徒の学びから生まれる成果 (Product) である。ポートフォリオとは、子ども中心教育から分離できないものである。

### 3 学習内容知識カード

知識カードとは、学習内容を記した書類のことであり、各学習内容に沿って、児童・生徒に自分で研究させ、各学習計画に沿った実践と結びつけさせる。

### 4 実習方法または試験方法

実習方法または試験方法は、学習評価と児童・生徒の学習活動を結びつけるために、学習者の理解力を測定することである。

### 5 計画形式指導方法

児童・生徒は自分の興味に合わせて少なくとも 1 学年ごとに一つの計画を作成しなければならないとカリキュラムによって規定されている。

## 学習計画 1

### 4. 私たちの身体

この学習計画 1 には、児童・生徒が 5 つの実際の活動を 3 時間を用いて実践する学習活動がある。指導者は学習計画を、以下のように各時間を 5 計画に展開してよい。

#### 学習計画 1.1

学習活動 1 身体の器官 1 時間

#### 学習計画 1.2

学習活動 2 自分の身体の芸術 0.5 時間

#### 学習計画 1.3

学習活動 3 出来るか否か? 0.5 時間

#### 学習計画 1.4

学習活動 4 自分を知る 0.5 時間

## 学習計画 1.5

## 学習活動 5 思考設計図 0.5 時間

上記の例のように、1 時間に沿って 6 段階学習定理に従い、より正確に計画毎に詳しく展開する。

## 学習計画 1.1

## 学習活動 1 身体の器官 1 時限

## 学習過程 学習活動

- 1 導入段階（5 分） 生徒は、肩、膝、足の形成の様子を表現しながら歌う。
- 2 体験段階（30 分）
  1. 教師は児童・生徒 1 人を教壇に立たせてから、教室の友人にわたしたちの身体はどんな器官から構成されているか、各器官には何の役割があるかについて意識させる。
  2. 児童・生徒に自分の写真をもって来させるか、ボードに貼ってある人の写真を探させる。その後、1「身体の器官」の実践として、器官の図に、器官の名前と器官の役割をペアにして線で結ぶ。その後次の段階へ導く。
- 3 反応段階（10 分） 児童・生徒に活動 1 の実践結果を提出させた後、次の段階へ導く。
- 4 理論段階（5 分） 教師と児童・生徒と一緒に活動 1 の実践から得た知識を総括する。
- 5 活動段階（5 分） 教師と児童・生徒と一緒に、日常生活への様々な活用について討議する。
- 6 総括段階（5 分） 児童・生徒と一緒に討議と質問を行ってから、ポートフォリオの 1 実践結果として保存させる。その後、教師は児童・生徒と次回の約束をする。

備考：6 段階の学習活動の時間配分では、指導者が適宜に時間を変更してもよい。

## 6 段階学習者中心指導過程

## 1. 導入段階（学習への導入段階）

学習者一斉の準備として。

- ・学習への導入のための歌、ゲーム、物語り
- ・学習事項について話し、グループに分け、活動段階についての説明
- ・学習計画立案のための、学習者の学習希望内容による思考図（Mind Mapping）作成

## 2. 体験段階（活動実施段階）

学習に関する体験を与え、実践として残させる（Folio）ための、教師が児童・生徒に与える様々な活動。

- ・興味がある計画
- ・実施テスト後、観察と記録
- ・テストおよびデータ収集、記録のための教室における教育
- ・実例としての教育、すなわち、事実、ニュース、テレビの視聴後の思考解説と記録

## 3. 反応段階（知識の構築段階）

活動による経験によって自ら知識を得させるために。

- ・活動成果項目の自己決定。
- ・活動後の意見交換
- ・活動から何か考えたことや得た知識についてのグループ討議。

- ・実践成果？としての得られた知識の記録（Folio）。
- ・児童・生徒による活動から生まれた成果紹介（Folio）。

#### 4．理論段階（思考集約として知識の要約段階）

児童・生徒に思考集約（Concept）、あるいは記憶を容易にする基礎原理として学習内容の知識を要約させるために。

- ・教師は児童・生徒に活動から得た知識の要約、すなわち試行結果要約をさせる。
- ・教師は児童・生徒が影響を受けた学習過程での思考と理論（知識）を関連付けさせる。
- ・教師は、学習あるいは正確な解答に関する知識（理論）を提供する。

#### 5．活用段階（問題に対して知識を使用する段階）

児童・生徒が、知識を実践または実際の生活の中で使用するように変えられるために。

思考集約（Concept）、あるいは記憶を容易にする基礎原理として学習内容の知識を要約させるために。

- ・児童・生徒は日常生活の中に知識をどのように使用できるかについて意見を述べる。
- ・児童・生徒に実際の場面あるいは仮の場面での問題解決のために、学習してきた知識を用いることによって活動を試行させる。
- ・児童・生徒に経験を積むために技術促進練習形式学習をさせる。
- ・児童・生徒は学習活動のために、知識導入成果を記録する（Folio）。

#### 6．総括段階（学習成果の要約段階）

学習終了あるいは学習成果評価の前に、教師と児童・生徒と一緒に学習活動の要約、学習節の要約や再確認をさせる。

- ・学習を要約した歌を歌う。
- ・教師と児童・生徒と一緒に再度学習内容要約する。
- ・児童・生徒は、思考図として学習内容を要約する（Mind Mapping）。
- ・教師と児童・生徒は一緒に活動評価（Folio）や学習者活動成果ファイル（Portfolio）を作成する。

以上